

平成 27 年度事業報告

1 公益目的事業

① 対馬丸記念館の管理運営事業

ア 常設展事業

平成 26 年に行幸啓が行われ、昨年は戦後 70 年の節目の年であったことから、対馬丸のことが県内外に広く報道され対馬丸記念館（以下、「記念館」という。）の周知につながっている。そのために、公益財団法人として記念館の展示を通して対馬丸事件の歴史と教訓を伝えながら、二度と悲しみを繰り返さない「学びの場」、平和の種を蒔く施設として平和の発信に一層努める必要がある。

27 年度は経年劣化が生じているランドセルを専門業者に委託して修繕を行うなど展示資料の整備保存に努めた。

イ 特別展事業

(ア) 沖縄タイムス社主催第 63 回全琉図画・作文・書道コンクール

「一那覇秀作展」開催 観覧者 1,585 人

期間：平成 27 年 12 月 25 日～平成 28 年 1 月 31 日

展示：那覇市内小学校 134 点、中学校 132 点の作品（図画・作文・書道の最優秀賞・優秀賞）

子供たちや保護者、地域の人々と記念館を繋げると共に、感性と知性の調和のとれた子供の成長を促し、子供たちの自由な表現から改めて平和の大切さを感じてもらうことを目的とする。

アンケート回答・・・作品を見にきた来館者（1,585 人）家族と 64%、個人で 12%、友人と 11%の来館であった。

展示会を通して児童生徒、家庭等との結び付きを強め、対馬丸のことを知って貰う良い機会になった。

(イ) 収集資料が語る「対馬丸」と「遺族たち」Part 2

「対馬丸船体発見から、対馬丸記念館開館までを新聞資料からたどる」

戦後 70 年の節目の年であったことから、より多くの人達に「対馬丸」を通して平和について考えて貰うために、昨年を引き続いて、新聞資料から振り返る企画展を開催 観覧者 1,063 人

期間：平成 27 年 8 月 22 日～9 月 30 日

「船体発見」、「洋上慰霊祭」「記念館建設～開館」、
「対馬丸慰霊祭」のコーナーを設けて展示

展示資料：新聞記事 105 枚、写真 7 枚及びパネル 6 枚

生存者である上原清さんによって行われた奄美大島で
の洋上慰霊祭も特別展示

ウ 対馬丸及び学童疎開に関する調査・研究事業

対馬丸の悲惨な歴史に関する証拠資料の収集に努め、学童
疎開について調査研究をした。

エ 来館促進支援事業

沖縄県修学旅行推進協議会平和学習分科会（県主催）に参加
し修学旅行における平和学習の課題等について意見交換した。

平成 27 年度入館者数…添付（p 7～8）

② 対馬丸戦没者の追悼と遺族等の福祉の向上並びに地域住民と
の交流促進

ア 対馬丸戦没者の追悼と慰霊祭の举行

8 月 22 日に小桜の塔前で慰霊祭を挙行し遺族、生存者、
関係者で犠牲者の冥福と世界の恒久平和を祈念した。

参加者約 450 人

イ 語り部事業

生存者や遺族等の語り部による県内外での講話、小中学校
等からの依頼に応じて講話を行った。講話実績 延べ 166

回 内訳：館内 99 回・館外 67 回（県外 4 回を含む。）受講
者：延べ 23,780 人

講話を聞いた児童生徒の感想文集「対馬丸の記憶 第二集」
を発行し、県内教育委員会、図書館、小学校などに配付した。

ウ 相談事業

那覇市社会福祉協議会の資格を有する経験者に依頼し第
2・第 4 木曜日に（22 回）デイケアを行い、その他健康や各
種年金に関することなど遺族、地域の高齢者等に対し助言・
相談を行った。

エ 講習会及び遺族と地域住民との交流促進

遺族等が健康で不安なく生活していけるよう、医療関係者や対馬丸の歴史や平和活動など様々な活動を行っている方を講師として、年2回「ちゃーがんじゅー講座」開催

(ア) 平成27年6月20日(土) テーマ:「講談で語る対馬丸」

講師: 講談師 旭堂 南照 氏

小学校の恩師高良ミチ子先生から教えを受けた、対馬丸事件の真相や講談を通して平和の大切さ、命の尊さ、戦争の悲惨さについて改めて考える機会になった。

初めての講談による講座で、観客が親しみやすく、楽しく参加でき、地域や高齢者との交流を深めた。

参加者 124人

(イ) 平成28年3月5日(土) テーマ:「超高齢社会における健康管理について」

講師: 首里城下町クリニック第一、第二理事長

医学博士 田名 毅 氏

転倒予防、骨折予防などのために行うロコモーショントレーニングの指導や寝たきり、要介護にならない為の食生活の助言を行った。高齢化が進む今、健康で精神面の充実を図るための方策が説明された。参加者 95人

オ 広報活動

(ア) 広報誌「対馬丸通信」を2回発行。遺族や生存者及び協力会員、支援者などに配付し、対馬丸記念会の活動紹介と対馬丸記念館の運営状況等を広報した。

(イ) 「移動教室年鑑 体験学習」に対馬丸記念館の広告掲載を行った。

同書は全国の殆どの小・中・高校、図書館、地方自治体等50,000ヶ所に配布され、校外授業の手引きとして活用されている。

③ 子供達に対馬丸の悲惨な歴史を伝え平和を発信する事業

ア 子供達の平和学習推進事業

(ア) 平和学習推進連携委員会を2回開催した。

那覇市教育委員会指導主事（平和行政担当）、平和専門家、那覇市内小・中学校教師各1名、対馬丸記念会理事長の5委員で「那覇市内小・中学校平和担当教師研修会」、「平和学習作品展」、「対馬丸事件及び沖縄戦に関するアンケート調査」等の実施について協議・決定した。

- (イ) 那覇市教育委員会と共催で第3回那覇市内小中学校平和教育担当教師研修会を開催した。
- (ウ) 対馬丸事件・沖縄戦に関するアンケート調査（H25、26、27年度実施予定）3年目として那覇市内小学校18校の5・6年生及び教員の悉皆調査を実施した。
- (エ) 資料のデジタル化に向けて、遺族会資料、対馬丸記念会資料、展示用収集物の資料カードを作成した。

イ 子供達による平和活動発信事業

子供たちが日常的、主体的に平和活動、平和発信が行えるようにすることを目的とする事業として、「つしま丸児童合唱団」（活動日4回/月・於：記念館）の活動を推進した。合唱団は、対馬丸慰霊祭、親子平和コンサート in 糸満、うるく童まつり等に出演して活動の成果を披露し、観客とともに平和への誓いを新たにした。

また、前年度から継続して那覇市立天妃小学校5年生の平和新聞、那覇市立安謝小学校全児童の対馬丸乗船者1,661人の垂れ幕、沖縄市立島袋小学校5・6年生の紙芝居、壁新聞を展示。

- 2 収益事業「物品販売・会議室賃貸事業」
実績：自動販売機2台の販売手数料収入（150,146円）
書籍「対馬丸 沈む」の売上金収入（52,542円）
- 3 その他事業「旭ヶ丘公園周辺緑化事業」
旭ヶ丘公園において白い花の咲くクメノサクラ2本を植栽
- 4 法人会計「管理事業」
対馬丸記念館の管理運営を実施すると共に、対馬丸記念会理事会及び評議員会の開催、庶務経理事務等を実施した。